

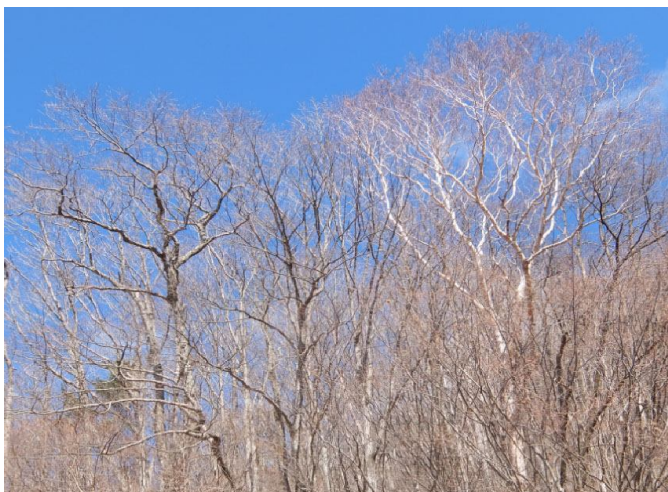
「晩秋の二度上峠(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

車で北軽井沢から東京方面に行くには、国道146号線で軽井沢へ下り、高速に乗るのが普通である。しかし、直接高崎市街に抜ける県道54号線という道もある。その道が越える峠が「二度上峠」(にどあげとうで)である。



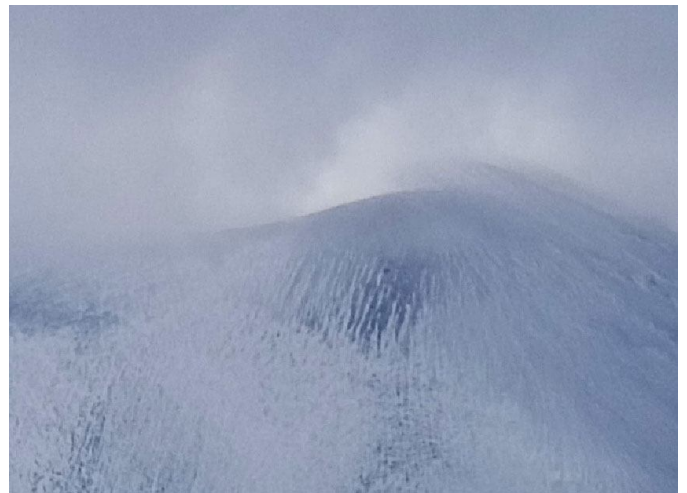
北軽井沢の交差点から二度上峠までは、車で20分ほどである。北軽井沢自体も標高1100mあるので、かなり冬枯れの景色だが、峠道を上るにつれて、落葉樹の葉はすっかり落ち、完全に冬枯れの景観になっていった。



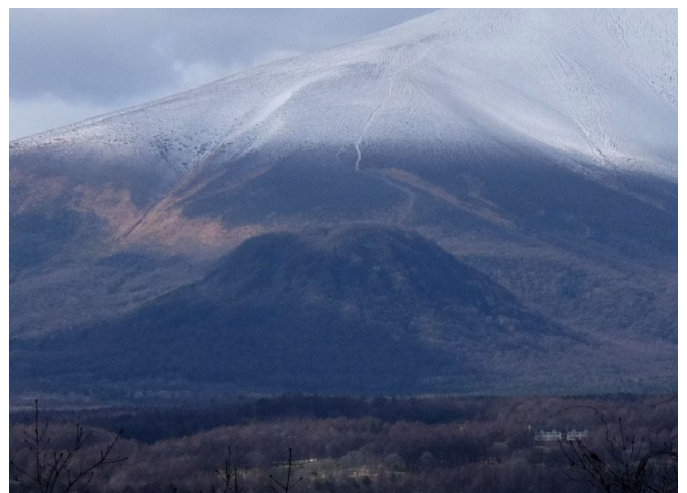
このあたりには、シラカバとダケカンバが混在している。いずれもすっかり葉を落としていた。落葉樹にとって、今の時期に葉を落とすことは、雪の重さから枝を守る上で、生きるか死ぬかの大切な営みなのだ。幸い今年は、初雪の前に落葉は終わったようだ。



峠近くの駐車場から見た浅間山。上半分が砂糖をかぶったように雪化粧をしている。しかし麓の浅間高原には、まだ雪は見られなかった。



山頂の火口壁を望遠レンズで見ると、噴気活動の盛んな場所は温度が高いため、雪が融けていた。



手前の富士山型の小さな丘は、「小浅間山」である。小浅間は浅間山の寄生火山の一つで、標高は1655m。雪線はそれより少し上の1800m付近のようだ。これから雪が降るごとに、浅間高原全体が真っ白になる。